

TOPIC

## 看護学部「2024年第1回ホームカミングディ」を開催



### おかえりなさい! 光が丘8号館に

「あしたの看護」を担い、患者さんに寄り添い、未来に寄り添う看護学部23期卒業生を対象に開催。

それぞれが話す看護の手触りは、やさしさと笑顔に溢れていました。

ホームカミングディは、卒業生にとって重要なイベントとなり、学校との絆を深める貴重な機会となります。

看護学部では、これからも定期的に関わります。

令和6年6月15日(土)に、この春に看護学部を卒業した23期生を対象とした「ホームカミングディ」を開催しました。

このホームカミングディは就職してからの悩みや不安等を仲間や教員と共有し、

エネルギー補充の場となることを目的に毎年開催されています。

今年は会場の8号館3階の学生ラウンジに卒業生14名(県内就職10名、進学者2名、県外就職2名)、教員7名、看護学部

同窓会副会長が集まりました。

参加者の皆さん、お互いの近況報告や歓談で楽しい時間を過ごし「リフレッシュになって良かった」などの感想が聞かれました。



## REPORT

### 「放射線防災スキルアップ研修 2024」開催

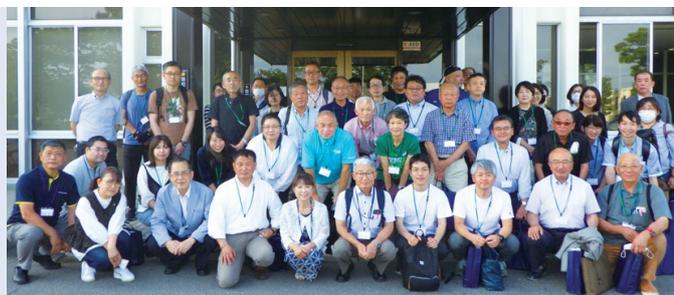
令和6年6月15日(相馬会場)、6月22日(郡山会場)、6月29日(田村会場)に於いて、県内の防災士を対象に「第1回 放射線防災スキルアップ研修2024」を開催しました。

この研修は、今後起こりうる放射線災害に備えるために、原子力防災を基盤とした自助・共助に必要な放射線の基本的な知識や、適切な防護措置対策およびリスクコミュニケーションスキルの習得を目的とし、環境省委託事業として昨年より開催されています。

今年は相馬会場11名、郡山会場38名、

田村会場20名の合計69名の防災士が参加しました。

スタディツアーとして、東京電力福島第一原子力発電所視察や南相馬原子力災害対策センターの見学を行い、「あらためて放射線防災の必要性を実感できた」などの感想が聞かれました。第2回は8月に、第3回は10月に開催予定です。



## 絵本で闘病する子どもたちの力になりたい ～パンダハウスは応援します。

パンダハウスを育てる会は、福島県立医科大学附属病院に入院経験のある中高生男女4人の「自分たちの経験を闘病する子どもたちに絵本にして伝えたい」という思いを応援しています。

物語は「くまとなかまたち～さくらさけ～」というタイトルで、入院中の困難を乗り越える工夫をやさしい絵と言葉で表現されています。

そこで、この取り組みを多くの方に知っていただきたいと、原画の展示会を開催し、絵本は本学附属病院で入院治療する子どもと家族に届ける予定です。

現在、パンダハウスを育てる会では、4人の願いを叶えるため、絵本制作費用の協力を募っています。



寄付の方法はパンダハウスを育てる会HPをご覧ください



### 原画展示会

●東邦銀行本店ロビー(開催済)  
6月11日～6月28日

●ふくしま木もれ日クリニック  
(福島市瀬上町字行人堂13-1)  
8月10日(土)11時～15時  
8月11日(日)11時～14時



### REPORT

## 体操で楽しく歳を重ねよう! 楢葉町で健康セミナー開催



令和6年4月25日(木)に、楢葉町保健福祉会館で楢葉町のイベントに合わせて健康セミナーの体力測定会を実施しました。

本セミナーは、東日本大震災に端を発しています。福島県の県民健康調査により、震災後、避難を余儀なくされた方が、避難所で運動機会のない生活が続いたことや、環境の変化によりストレスが生じたことなどが原因で、住民の健康状態が悪化していたことが分かりました。

この状況を変えるべく、自治体と本学放射線医学県民健康管理センターが協力し、避難区域を含む13の市町村で運動指導や栄養指導などを始めました。本セミナーはその活動の一環となります。

これまでの健康診断で「転んだことがある」と回答した、体力低下の兆候がある高齢者を対象に2024年1月から、3ヶ月間の運動指導を行っています。

今回の体力測定会では、歩行能力や、片足立ちで、注意力、バランス能力の測定を行ったあと、マシンを利用して、筋力の測定も行うなど、日常生活に必要な能力を総合的に確認しました。

体力測定の後には、放射線医学県民健康管理センターの職員から、震災後の地域住民の健康について簡単なお話をしました。

参加者からは、「運動する機会が増え、自宅でも意識して体を動かすようになった。」などと感想が寄せられました。

## 本学医学部皮膚科学講座が日本皮膚科学会 「雑誌振興賞(最優秀施設)」と「雑誌論文賞」のW受賞

本学医学部皮膚科学講座は、日本皮膚科学会雑誌で2023年度の最優秀施設として雑誌振興賞を、同講座の入江絹子助手が雑誌論文賞を受賞しました。

日本皮膚科学会は、1900年(明治33年)の創立以来、皮膚科学に関する研究・教育と医療について、連絡連携を図り、皮膚科学の進歩・普及に貢献し、学術文化の発展に寄与することを目的に活動している伝統ある学会です。

今回受賞した、日本皮膚科学会雑誌 振興賞(サノファイ助成)は、日本皮膚科学会の機関紙『日本皮膚科学会雑誌』に、さらに質の高い論文を掲載し発展・振興することを目的に、2022年に新設された賞です。

同講座が、『日本皮膚科学会雑誌』に質の高い論文を最も多く投稿・採択された施設として、入江絹子助手が、独創的で優れた成果を上げた論文を投稿した研究者として、今年度の受賞となりました。



写真左 入江絹子助手